

多材質・高付加価値の鋳造品を！ 知的資産経営報告書が育む新展開

辰巳工業 株式会社

**多品種、小ロット、短納期、
多材質に対応する技術力が強み**
特殊鋼鋳鋼品を主要生産品目とする辰巳工業は、現社長である辰巳氏が2000年から実質的な社長業を引き継いで現在に至っている。

「2000年当時は、18-8ステンレスなど一般的な特殊鋼の鋳造がメインでした。そこから特殊で鋳造難度は高いが、より耐蝕性のある材質、例えばモネル、ハステロイ、インコネルなどに挑戦するようになりました。現在は、高付加価値製品へのシフトを進めています」

鋳物の製造は、鋳込み時の発生ガスをいかに抜くかが難しく、モネルなどは鋳造に関する文献もほとんどない中、試作を何度も行って成功させたという。

「製鉄所向け製品の製造技術を活かして、ガス化溶融ゴミ焼却炉用水冷式バー

ナーノズルの設計・製作も行っています。これは、近年の環境基準に照らして、大手鉄鋼メーカーから話をいただいて取り組みました。このように挑戦する機会をたくさんいただけたおかげで、2000年頃比べるとスタッフや現場の技術・技能は格段に進歩しています」辰巳工業の強みは、多品種、小ロット、短納期、多材質、そして形状の複雑な製品にも対応可能なことと、品質管理が行き届いていることだ。

「大手企業の元役員や元工場長・元鋳造部長を顧問にむかえ、設備見直しや、現場指導を行っていただき、高品質な鋳物を製造できる技術が根付きました。叩き込まれたのは『金属と炉があれば、どんなことでもできる』ということです。『客先で出た不良は徹夜してでもやり直して納品しなければならない』という精神も

学びました」

注湯スケジュールを自社HPで公開し、どんなものでも1個から受注できる体制を整えているのも、技術に対する自信の表れだ。

「今は品質管理に力を入れていて、鋳物屋として一歩も二歩も進んだ品質の実現を目指して取り組んでいます」

外部顧問を招聘して 社内独自に人材を育成する！

辰巳工業の人材育成の柱の一つは、先に述べた外部から招聘した顧問による応援体制だ。社員は顧問から固有技術のみならず、管理手法などについても多くのことを学ぶ。社長も率先して、学べることはどんどん学んだという。このため、社員が外部で開催される研修会に参加するケースは少ない。

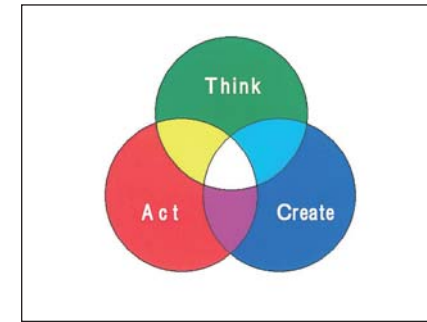
「顧問を依頼する際は、現場で直接指導をしながら技術を教えてくれる方をお願いしています。最近強化している品質管理や熔解についても、各ジャンルでトップレベルの知識と経験をお持ちの方に顧問として就任していただきました」

人材は「めぐりあい」という辰巳社長。「社長である私が『こんな人に会いたい』という強い思いを持てば、望む方々にめぐり会えます。今は、生え抜きの工場長を育ててくださる方を探しています」

この20年近く、新卒採用の募集を続けており、鋳造業界では定着率も高く、社員の平均年齢は38歳程度。

「職場の誰もが良い人だからなじみやすいのでしょう。みんな現場が好きで、好きすぎて困るぐらいですよ(笑)」

手当関連も充実しており、ボランティア



知的資産経営報告書表紙の光の三原色をイメージした図

手当、医療費自己負担分補助、家族手当などがある。すべては、給料も業界でトップクラスにして、社員に喜んでほしいという社長の思いからだ。そして、各種のボランティア活動にも積極的に社員を参加させて、『人のお役に立つこと』を経験させている。

社内外に対して、 徹底した『正直経営』を実践

辰巳社長は、社内外に対して正直な経営を実践している。

「原材料が高騰した時期も、値上がり分を辰巳工業で吸収することを宣言し、一方で原材料メーカーには値上げを容認する代わりに原材料確保を依頼しました。すると、お客様の方から値上げした方が良いよ、と言われたこともありました。最近、鋳造業界でもお客様からの値下げ要求が強いようですが、弊社にはそのような話はほとんどきていません」

サービス面を含めて顧客の事業活動に将来とも応じられるといった、企業の社会的責任を果たすためにも、利益は必要だと語る辰巳社長。

「適正な利益の確保に向け、すべてを正直に公表します。『常に正直に、クリーンに』が私の信条です。品質管理についても同じことが言えます。特殊鋼鋳鋼品は、



砂型の表面をなめらかにしているところ



砂型に溶解した特殊鋼を流し込むところ

完成品を見ただけではプロでさえ中身の品質は分かりません。だからこそ、常に正直な心が大切なんです。すべて正直だから相手に信頼してもらえるのです」

経営の考え方が一変した 知的資産経営報告書の作成

今のような経営姿勢を強めたきっかけは、知的資産経営報告書を自社で作成したことだという。報告書の表紙は光の三原色をイメージし、重なった白い部分は、何でも真っ白い気持ちで取り組むという意味を示している。

「報告書を知ったのは、日本政策金融公庫のセミナーに参加した時です。多くのことをITコーディネーターの方に教えていただきました。その後、社内研修会でSWOT分析を行い、社員全員に関わってもらって作成しました」

報告書には、弱みとして現場の改善意欲の低さを記載したが、改善提案制度の導入や勉強会の開催などにより、現在では意識改革ができてきているという。

「報告書で明文化することで、全社員が解決すべき課題を意識して業務に取り組むようになりました。これにより、今後の会社の方向を共有できたと思います」報告書に記載した問題点や改善すべき点はほとんど達成され、弱みもほぼ解決

された現在、次のステップに向けての報告書の改訂を考えているという。

モノづくり企業の誇りを胸に 『モノづくりは正直であれ!』

今後の辰巳工業について辰巳社長に伺った。

「今の路線を守りながら、『モノづくりは正直であれ!』という言葉を胸に、より良い製品を世の中に供給していける会社になりたいと思っています。そして、社員一人ひとりが自社の製品や仕事に誇りが持てる会社を目指します」

そのために、社内掲示板をさらに活用して、自社製品がどこに使われているかなどを積極的に発信していきたいという。

「また、具体的な製品群としては、高付加価値の鋳物を伸ばす一方、低ニッケルなるも高耐蝕性の鋳物を低価格で提供できるように考えています。現在、弊社のように多材質の鋳造品を製造できる企業は、日本中探してもそう多くはありません。さらに、真空熔解などによるさらなる高付加価値製品、高付加価値技術へのシフトを強めていきます。それが、これからの時代を弊社が勝ち残るための方向だと思っています」

取材協力/Short Cappuccino 中直照



溶解した特殊鋼を炉から出すところ。溶解金属の温度は1600℃以上

辰巳工業 株式会社

〔住 所〕 大阪府茨木市佐保48
〔業 種〕 銅合金鋳造品、特殊鋼鋳鋼品などの製造
〔代 表 者〕 代表取締役 辰巳施智子
〔資 本 金〕 3,000万円
〔従 業 員 数〕 36名
〔取 材 日〕 平成22年9月21日(火)
〔取材対象者〕 代表取締役 辰巳施智子氏

〔沿革〕
昭和32年 設立(銅合金鋳物製造業として創業)
昭和48年 特殊鋼工場を建設。ステンレス鋼鋳鋼品の製造を開始
平成2年 ステンレス鋼・銅・銅合金の異種金属溶接部門を新設
平成15年 ゴミ焼却炉用水冷式バーナーノズルの設計・製作を開始
平成20年 知的資産経営報告書作成



代表取締役
辰巳施智子氏